

Dance Journey's Director

ダンスジャーニーのディレクター



Marlène Christine Jöbstl

マルレーヌ・クリスティーヌ・ヨブストル

マレーネはヘブライ語に由来し、「塔」を意味する。

1975年1月2日、フランスのパリで生まれる。
オーストリアのウィーンで育つ。

51歳

二重文化：フランスとオーストリアの文化

2014年10月よりスペイン、バルセロナ近郊のオカタ在住

2002年、パリにて吉岡由美子氏と初めて舞踏に触れる

2005年、ニューヨークにて吉本大輔氏と初めて舞踏を踊る

Marlène Jöbstl
舞踏家

<https://www.jobstlmarlenebuto.com/>

芸術家、教師、研究者

マルレーヌは、型破りで責任感のある芸術を体現しており、ここでは美と詩が勝利を収め、ダンスは複雑な深みを表現する手段となる。

マルレーヌは逆説、ユーモア、挑発を巧みに操り、詩的かつ政治的な背景と枠組みを用いて既成概念に疑問を投げかける。彼女の作品は正直で、官能的で、グロテスクで、素朴であり、常に「境界線上」、剣の系の中に存在する芸術性を露わにする。

彼女の専門分野は、舞台演出と振付、創作と解釈、教育学および芸術研究、そして「サイトスペシフィック・パフォーマンス」である。彼女は舞台芸術において30年の経験を持つ。

ダンサー、演出家、研究者、教育者、振付家、パフォーマンスアーティストであり、多言語を操り、二つの文化を持つマルレーヌ・ヨブストルは、1995年にウィーンで初めて舞台演出を手がけ、演劇の道に身を投じた。その後、1998年にパリでジャック・ルコック氏に、2000年にロンドンでフィリップ・ゴーリエ氏に師事し、演劇芸術の研鑽を積んだ。

彼女は2001年にミシェル・アザマに師事してドラマツルギーを学び、サラマンカ大学の学際芸術祭で初のモノログ「LIMIT」を創作した。2002年にパリでこの作品を創作する過程で、彼女は芸術家としてのアイデンティティの危機に直面する。そこで吉岡由美子と出会い、舞踏に出会ったことは彼女にとって啓示となった。舞踏は演劇とダンスの中間に位置する、知られざる地下の道であり、自由と真実を擁護し、排除ではなく包容するものである。彼女はテキスト、舞踏、歌、演劇を融合させた初のダンスソロ「FEM.」を創作し、この神秘的な芸術の奥深くへと探求を続けていく。

彼女は、東京、ベルリン、ニューヨーク、ローマなど世界各地の都市を訪れ、同時代の偉大な巨匠たちから学び、指導を受け、共に仕事をしている。数十年にわたり情熱を傾け、吉岡由美子、大野義人先生、吉本大輔、竹之内篤といった国際的な巨匠たちと貴重な人脈を築き、彼らとは深い友情を育んでいる。

マルレーヌは、ほとぼしる創造力の持ち主で、過去30年間で500以上のダンス作品を創作してきました。彼女はソロで演出するだけでなく、最新のソロ作品「Strange Strange Game」（2025年11月、バルセロナのMailunaで上演）をはじめ、世界的に有名な舞踏家、吉岡由美子とのデュオ作品「Boots are Made for Walking」（2024年5月、バルセロナのTeatro Metamorfosisで上演）など、コラボレーションやデュオ作品も手掛けています。

芸術監督として、マルレーヌは他者の創造性に奉仕することを喜びとし、ソロやプロ、アマチュア、子供など多様なグループのための演出や振付に情熱を注いでいます。彼女は根源を探求し、細部や理由を重視し、真の芸術を明らかにします。また、モトキダンスカンパニーのために制作した1時間の劇場ダンス作品「リリス」では、演劇と舞踏を融合させ、虐待や暴力といった女性の抱える困難な問題を掘り下げています。

彼女は最近、2024年6月にポルトガルで8人のパフォーマーと共にキャバレー「Beauty Of Butoh」を企画・演出しました。「B.O.B.」は、人生における美を育むことの重要性をテーマにしたショーで、私たちが美をどのように扱い、どのようにケアしていくのかを問いかけます。

パフォーマンスアーティストとして、マルレーヌは今この瞬間に身を委ね、今ここにある人生、感情、神秘、タブーに奉仕するダンスを踊る術を知っている。彼女はフェスティバルやギャラリーといった特別な空間に投資することを好み、その瞬間の唯一無二の特異性を大切にしている。

吉本大輔の後押しもあり、マルレーヌは2007年からパリで舞踏の教育者として活動しており、クラスやワークショップでは芸術研究に重点を置き、七元素、美、ユーモア、自由、死、エロティシズム、魂といった特定のテーマを探求しています。2019年10月には、2014年から居住しているバルセロナの「AbaniKo BuTō, thinking creators training」で、1年間の教育プロセス形式でスタートします。彼女の目標は、自由に責任感のある新世代のアーティストを発掘することです。ラディカル・ダンス・リサーチは、クランプと舞踏、人形劇と舞踏、音楽家と舞踏など、ハイブリッドな芸術実践を始めることで、マルレーヌが限界に疑問を投げかける方法です。彼女はまた、アートセラピストともコラボレーションしています。

2019年5月から毎年バルセロナで開催されている「舞踏誕生日金色祭」の発起人であり、2022年1月にドイツ語版、2024年1月に英語版が自主出版された「吉岡由美子のダンスハンドブック」の共著者でもある。

彼女は演出、創作、そしてダンサーとして活動する傍ら、バルセロナで舞踏のワークショップや講演会を開催し、2026年のシーズンには東京とメキシコでも公演を行う予定だ。

「私の芸術は、踊る準備ができた平和な戦士であり、その瞬間を捉える。」 M.J.



PHOTO © www.abonnedistance.com



ダンスの旅:舞踏 東京バルセロナ

2026年3月19日～4月11日





ダンスの旅:舞踏 東京バルセロナ

2026年3月19日～4月11日









ダンスの旅:舞踏 東京バルセロナ

2026年3月19日～4月11日



ダンスの旅:舞踏 東京バルセロナ

2026年3月19日～4月11日